

令和5年度 学校評価シート

青梅市立泉中学校

<学校経営方針の重点>

1 学習意欲の向上

2 心の教育の充実

3 安全・安心な学校

4 向上を目指す組織運営と人材育成

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄	
							評価	コメント
学ぶ意欲の向上	生涯にわたり、主体的に学び続ける生徒の育成	「聴く」ことを重視し、学び合う授業を実践する。	ねらいを明確にし、1時間の中で共有の課題とジャンプの課題に取り組みせ、生徒が協同で探究し粘り強く考える機会を増やす。	B	協同学習についてこだわって授業を展開できていない。聞き合う関係づくりに工夫が必要である。	授業の場面によって生徒が共同で探究する授業を必ず実施する。	B	授業の始めに必ず今日の目当て(目標)を示すことが大切である。いろいろな学校で私も話をするが、なかなか定着しない。
			四人組やペアで課題解決に向けて話し合う場面を設け、生徒の疑問や考えをつなぐことで理解を深めるとともに、聴き合う関係性を醸成し、だれ一人孤立させない。	B	聞き合う関係づくりが形だけになっていて深まっていない。慣れるまで指導者の支援が必要である。	考え方や理由を探究したり、生徒の疑問を引き出し生徒の考えをつないだりして、教師が深める見本を示し慣れさせる。	B	理解している生徒が、そうでない生徒に教えることにより、より深く理解でき、良いこと。理解できていない生徒にとっても、とてもプラスになる。「だれ一人孤立させない」ことは素晴らしい。
			授業中や自宅においてタブレットを活用した学習を推進する。	B	自由にタブレットを使える環境ができていて、指導の成果が表れている。	家庭学習としてeライブラリー等の活用の工夫をする。	B	生徒も違和感なくタブレットを活用している様子を見ると、成果が上がっていると思う。
健全育成	自他を尊重し、主体的に社会に貢献する生徒の育成	「聴く」ことを重視し、互いに認め合う心を育む。	常に傾聴・共感を心がけ、複数の教員で生徒や保護者の対応に当たる。	A	傾聴を核とした指導ができています。外部機関と連携ができています。	今後も現在の寄り添う指導を継続する。	A	初動における対処ミスを防ぐためにも、複数の教員で生徒や保護者への対応を継続してほしい。
			生徒会活動などの自治活動や校内外のボランティア活動を活性化させ、自己有用感高揚につなげる。	B	生徒会活動やボランティア活動等を通して、生徒が活躍する場の提供の意識が職員の中で高まっている。	職員一人一人の自己有用感高揚に対する意識をさらに高め、組織的に動く必要がある。	B	地域活動(自治会)での行事に生徒自ら参加していただきたい。ボランティア活動に喜びを得られるように指導していただきたい。
			教室環境整備や授業展開の工夫をしながら、組織的に特別支援教育に取り組む。	A	特別支援教育に対する意識は職員間で高まっている。	生徒支援のチェック体制組織を明確に位置付ける。	A	泉中の特別支援教育は当初より通常学級との交流活動が試みられ成果が上がっていると感じる。
安全・安心な学校	安心・安全な学校生活の実現(いじめ、不登校の未然防止)	生徒の心に寄り添い、個に応じた指導の充実を図る。	授業中に探究や意見交流の場面を設け、聴き合うことの重要性を説き、生徒間に互いに認め合う関係性を育み、居場所感を醸成する。	A	学校全体でお互いに認め合う雰囲気を作りたい。探究や自ら尋ね疑問を解消する意見交流としたい。	さらに聴き合うことの重要性を理解させ、探究や疑問解消の場面を多く設けるようにする。	A	生徒自身が自分が所属する学校、学級に居場所を感じていることがその生徒が成長していく上での基盤を形作るものと思う。継続してほしい。
			アンケートや個別面談等、相談体制の充実を図り、不登校やいじめ防止を念頭に生徒理解に努め、問題には組織的に対応する。	A	大きないじめ問題が起きた。生徒の変化に気づき指導につなげるよう、アンテナを高くする必要がある。	生徒理解に努め、生徒同士の温かく柔らかな関係性を育む。不登校対応を充実させる。	A	いじめ問題について民生委員にも丁寧に伝えてくれたことは、学校として「できることは何でもやろう」という姿勢が感じられ、好感がもてる。
			セーフティ教室や避難訓練・安全指導を通じ、自ら危険を予測し回避する力を育てる。防災教育を推進し、生徒の意識向上を図る。	A	外部機関と連携した取組ができた。全学年が参加できる防災教育が形になってきた。	いざという時を想定した避難訓練や安全指導を今後も充実させ、意識向上を図りたい。	A	大きな災害が発生した時の対応力が、今求められている。電気、ガス、水道などのライフラインが使えない状況での訓練なども必要となる。
組織運営・人材育成	教職員が互いに学び合い高め合う中で、指導力向上を目指す組織を確立する	授業を通じて、互いに学びを深め、指導力の向上を目指す。	すべての教員が「聴き合う」ことを重視し、協同と探究のある授業を実践するとともにICT活用力の向上を目指す。	A	ICTを効果的に活用した授業を展開できている。協同と探究の推進が課題である。	各自が実践する機会を増やし疑問を共有することによってさらに深めていく。	A	授業を何回か見させていただきましたが、楽しそうに授業に取り組んでいる授業もあったが、説明が多く聴いている時間が長い授業もあった。
			互いに授業を参観し合い、参観とその後の協議を行う機会を増やし、教科を超えて指導力の向上を目指す。	A	校内研修の機会を使って互いに授業を見合うことはできている。自主的に授業参観を増やせるとよい。	校内だけでなく市内外問わず、積極的に授業参観に出かける風土を作る。	A	教員の授業に対する意欲は素晴らしいと思います。教育の必要性を生徒がもっと感じられたら。学ぶことの楽しさが分かる指導をお願いします。
			外部講師を招聘して校内研修を行い、授業を中心とする指導力向上を目指す。授業以外の研修にも取り組む。	A	校内研修の機会を使って授業力向上のために3回、教育相談で1回講師を招聘し効果が上がった。	来年度は青梅市研究指定校1年目として、生徒が社会に出て役立つ力の向上を目指す。	A	泉中では年に3回ほど外部講師を招いて研修を行っていると同っている。その取組は今後も継続すべきである。

※達成度合 A:80%~100% B:60%~80% C:40%~60% D:40%以下